

氏 名	木 村 修 平
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3317 号
学位授与の日付	平成19年3月23日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Axial Length Measurement Using Partial Coherence Interferometry in Myopic Children: Repeatability of the Measurement and Comparison with Refractive Components (近視学童における部分的干渉測定法を用いた眼軸長測定について: 測定のリピータビリティと屈折要素との比較)
--------	---

論文審査委員	教授 西崎 和則 教授 松井 秀樹 助教授 田中 弘之
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

近視学童において、レーザー干渉計による非接触型眼軸長測定のリピータビリティを評価し、さらに得られた眼軸長と屈折構成要素との関係を明らかにすることを目的に研究を行った。対象は95名の学童で、非接触眼軸長測定器(IOLMaster)を用いて、右眼の眼軸長を3回測定し平均値を得た。5分後、再検査を行い、測定値のリピータビリティを求めた。得られた眼軸長と、年齢、調節麻痺下のオートレフ値、角膜曲率半径の関係を調べた。結果は眼軸長測定のリピータビリティは $\pm 0.05\text{mm}$ (屈折値で $\pm 0.12\text{D}$ に相当)で、年齢や屈折値に影響されなかった。眼軸長と角膜曲率半径の間には正の相関を認めた。眼軸長と屈折値との間には負の相関を認めたが、眼軸長と角膜曲率半径との比(AL/CR)は、屈折値との間にさらに強い負の相関を示した。結論として、IOLMasterは近視学童において、屈折値や年齢によらず高いリピータビリティで眼軸長を測定できる。簡便かつ安全であることも考えると、眼軸長や近視の変動を評価する研究においてIOLMasterは有用である。

論文審査結果の要旨

本研究は、近視学童において、レーザー干渉計による非接触型眼軸長測定のリピータビリティを評価し、さらに得られた眼軸長と屈折構成要素との関係を明らかにした価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。